

2010年度短期大学部FD報告会

社会福祉実習における事前事後指導について
—利用者理解とその需要の把握
および支援計画の作成—

龍谷大学短期大学部

FD委員会プロジェクト・チーム 報告：川崎昭博

開催日時：2010(平成22)年7月23日(金)14時から16時

開催場所：深草学舎21号館403教室



概 要

社会福祉士養成の新カリキュラムでは、社会福祉士資格取得をめざす学生は実習において『利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成』について指導を受けることとなっている。このことをうけて、『利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成』についての指導のあり方を検討するためのプロジェクト・チームを、短期大学部FD委員会のもとに発足させ、『利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成』能力習得のための教育プログラムの開発、実習生が実習中に使用する書類の様式の作成などを行ってきた。本FD研修会では、本プロジェクト・チームでの活動の成果を報告し、参加者と共有するとともに、今後に向けた改善点などについて討議したい。

2009年のカリキュラム改正

近年の介護や福祉ニーズの多様化・高度化をふまえ、人材の確保・資質の向上を図ることを目的に、2007年12月、「社会福祉士及び介護福祉士法」が改正された。

この法律改正とあわせて社会福祉士及び介護福祉士の資格を取得する者が履修すべき教育内容の拡充を図る必要があるということで、2009年4月から新しいカリキュラムのもと教育がスタートした。

教育カリキュラムの構成

1. 人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法
2. 総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術
3. 地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術
4. サービスに関する知識
5. **実習・演習**

実習・演習

相談援助演習（150時間） ・ 相談援助実習指導（90時間） **相談援助実習（180時間）**

<相談援助実習のねらい>

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職種との連携の在り方及びその具体的内容を実践的に理解する。

相談援助実習の教育に含むべき事項

①

② 相談援助実習指導担当職員は巡回指導を通して、次に掲げる事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。

ア

イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成

ウ



短期大学部FD委員会プロジェクト・チーム

- 構成メンバー

ソーシャルワーク演習担当教員 5名

- 委員会の目的

『利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成』習得のための教育プログラムの開発、実習生が実習中に使用する書類の様式の作成、指導のあり方を検討する。

委員会の開催と授業

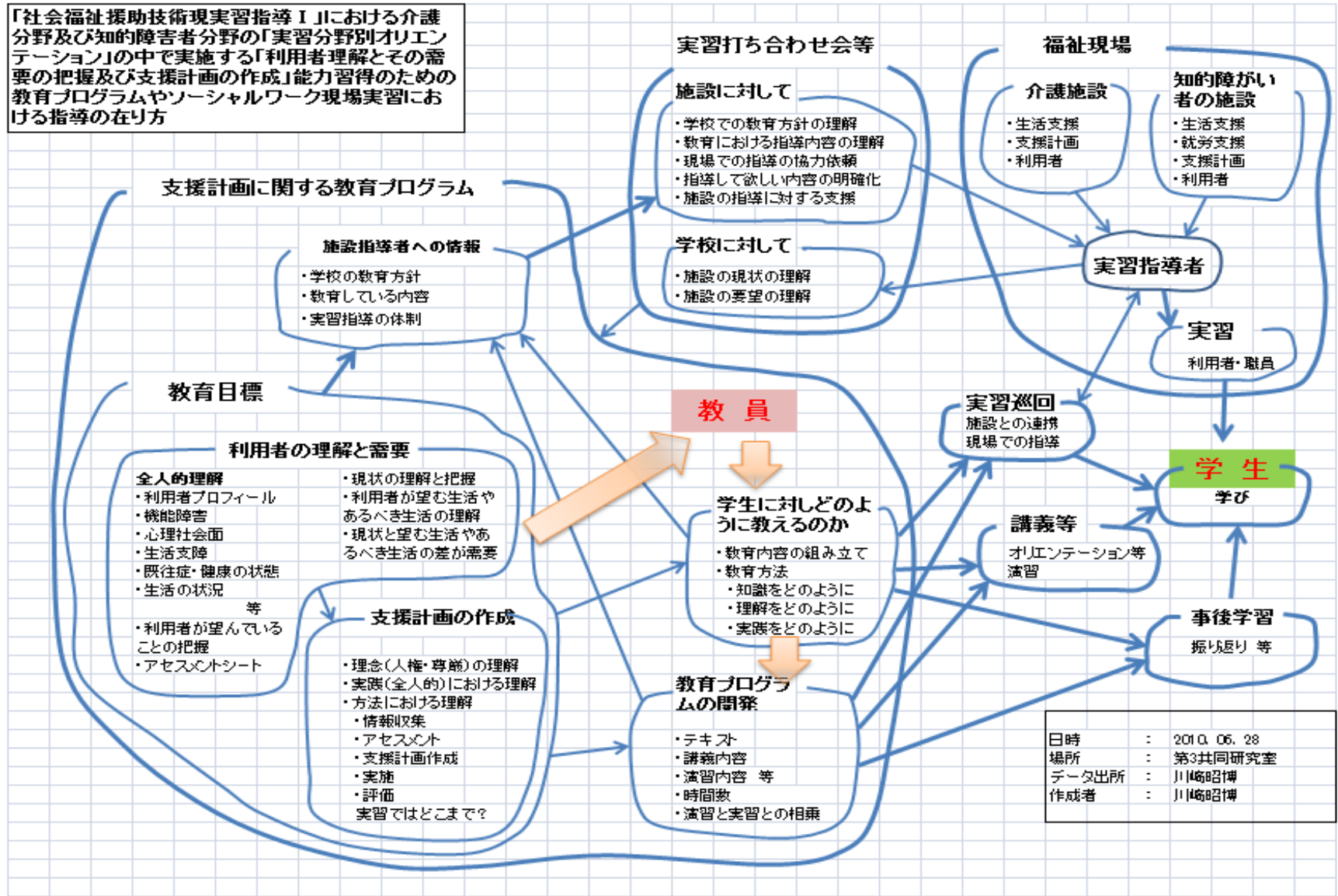
- | | | |
|-------|--------|-----------|
| 5月31日 | 第1回委員会 | (授業の組み立て) |
| 6月28日 | 第2回委員会 | (授業の組み立て) |
| 7月10日 | 講義と演習 | (介護施設) |
| 7月17日 | 講義と演習 | (知的障がい施設) |
| 7月19日 | 第3回委員会 | (振り返り) |

検討項目

1. 分野別オリエンテーションと支援計画に関する教育プログラムについて（実習指導に関しての全体像）
2. 分野別オリエンテーションをどのように行うか・理解してもらうための工夫（知的障がい者施設・介護施設）
3. 支援計画と実習指導の流れ（授業）
4. アセスメント項目について（アセスメントシートの書式）

1. 実習指導に関する全体像

分野別実習オリエンテーションと支援計画に関する教育プログラムについて（実習指導に関する全体図）

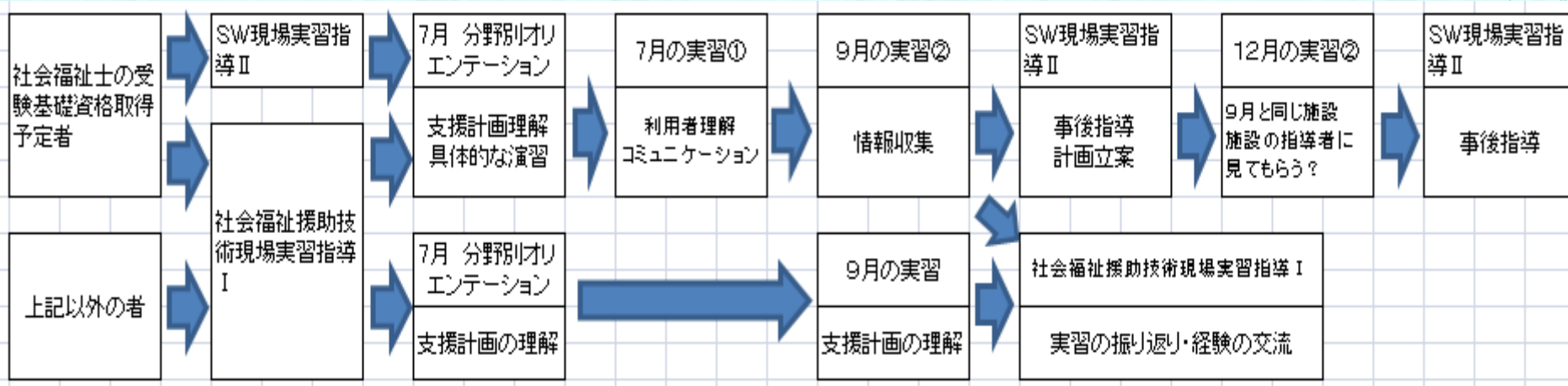


日時	: 2010. 06. 28
場所	: 第3共同研究室
データ出所	: 川崎昭博
作成者	: 川崎昭博

2. 授業の組み立て

	項 目	時間	内 容
1	支援計画についての知識と理解（講義） （社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ）	90分	<ul style="list-style-type: none">・ 支援計画の意義と必要性について・ 支援計画作成までの過程・ 情報収集⇒アセスメント⇒支援計画作成⇒実施⇒評価・ 実施する期間・ 結果の予測
2	事例を使って具体的な支援計画を立てる道筋を理解する。（利用者理解と需要の把握から支援計画へ） （ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ）	120分	<ul style="list-style-type: none">・ 具体的事例（知的障がい者・高齢要介護者）・ アセスメントシート（情報）・ 週間日課票（情報）・ 利用者理解のためのワークシート（利用者・家族）・ 需要の把握のためのワークシート・ 目標の設定（長期・短期）・ 具体的方法を記載した計画書の作成
3	利用者理解と需要についての解説及び支援計画についての解説 （ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ）	60分	<ul style="list-style-type: none">・ 利用者理解の解説・ 需要野把握についての解説・ 目標設定についての解説・ 具体的支援計画書提示・ ポイントの整理と解説

3. 支援計画と実習指導の流れ



4. アセスメントの項目と様式

アセスメント項目と書式の検討

- ・ 項目と書式

授業での時間数から記述内容が多いと書くことが難しいのではないか・・



記載しやすいシートを探し検討

利用者理解とその需要の把握及び 支援計画の作成

- 利用者のことが理解できそのニーズの把握ができる事例の視聴覚教材（DVD）を活用してアセスメントシートを記載していきながら理解を深める。
- 特別養護老人ホームにおける高齢者介護の事例
- 知的障がい者施設における生活支援の事例

講義の組み立て

第1回の講義

- ① 支援計画とは何か
- ② 支援計画の具体例

第2回・第3回の講義（社会福祉士基礎受験資格を取得する学生を対象） 演習

① 視覚教材の事例からアセスメントシートを記載してみる。

3回～4回の視聴

② ①の事例からモデル的に立てた支援計画で理解を深める。

学生の課題

- 9月の実習では、実習先で利用されている方を対象に具体的にアセスメントシートを記載し利用者理解とニーズの把握を行う。
- 実習後、大学で12月の次回の実習までに支援計画を立ててみる。
- 12月の実習で施設指導者に支援計画をみてもらい意見をもらう。

ふりかえり

- 支援計画については、他の講義でも行われていると考えられるので、内容の一部は省いてもよかったのではないか。
- 実習先で学生がどの程度アセスメントシートに記載してこれるのか。
- 短大の2年間でどのように学生に理解してもらうのか授業の組み立ての工夫の必要性がある。
- 施設へ指導について協力依頼を行う。